共立女子大学家政学部紀要　第70号（2024）

# アップサイクル･ブランドの商品開発（第２報）
## ～デニムプロジェクト2022, 2023の作品制作･発表を通して～

Product Development for Upcycled Brands (2nd report)
— Through the production and presentation of Denim Project 2022 and 2023 —

キーワード：アップサイクル、価値、廃棄、廃材、古着ジーンズ
Key words：Upcycling, Value, Waste, Scrap materials, Used jeans

宮武　恵子、加藤　裕子
Keiko MIYATAKE, Yuko KATO

### １．はじめに

2022年度の紀要では、「アップサイクル・ブランドの商品開発（第１報）～郡内産地との取り組みを通して～」と題して論じた[1)]。アップサイクルとは、廃棄物や不用品に手を加え、元の製品より価値の高いものを生み出すことである[2)]。また使われなくなった物や端材・廃棄物から、新たな価値を見出し、製品開発をする行為を指す。現在の経済活動は、大量生産とその消費の繰り返しが行われているため、国内における廃棄物の量は多い[3)]。解決策の１つとして、アップサイクル（Upcycling）の取り組みが注目されつつある[4)]。

第一著者は、アパレルメーカー、OEM[i)]、ODM[ii)]における企画提案やデザイナーとしての知見を基に、研究を進めている。業界における経験から、山梨県富士吉田市を中心とした郡内産地[iii)]の特性に注目し、アップサイクル・ブランド『edge.』を立ち上げ、デザインにより新しい価値を創出することを目指している。郡内産地で取り扱っている細番手で高品質であること、種類が豊富であることを踏まえ、織物を生産する際に排出され、廃棄されてしまう「捨て耳」[iv)]に着目して、製品開発を行っている。前稿では、企画書作成から産地の特性を活かした製品造形のプロセスを整理し、市場展開を念頭においた２つのイベントに参加した結果をまとめた。イベントにおいては、消費者視点のアンケート調査を行い、さらに本学学生にも同様の調査を行った。その結果、持続可能性をコンセプトとした取り組みや製品デザインは高評価を得た。一方、価格と価値のバランスの検討が必要であることがわかった。

この論文の発表後に、山梨県南都留郡富士河口湖町の店舗やWebにおいて、『edge.』製品の展開が始まった[5) 6) 7)]。また、2023年「千代田学事業：千代田区で学ぶサステナブルファッション」[v)]の講演会で講演をした。このように、製品への評価と社会への啓発活動に意義があるのではないかとの手応えを感じている。

第一著者は、2011年から、ファッションにおける環境課題も研究テーマとしている。その一環として、2016年より千代田区「エコフェア／千代田のエコ自慢（旧：エコ＆サイクルフェア）」に参加し、「エコと被服をつなぐ課題」をテーマに、作品展示やファッションショーなどを実施している[8)]。例えば、B反/B品[vi)]や廃材を使った作品、着古した振袖とドレスを使った新スタイルの提案などである[9) 10)]。2022年度は、「サーキュラーファッション」[vii)]をテーマとした「被服学ゼミナールA・B」[viii)]で取

り組んだ。この内容は、廃棄されてしまう運命だったジーンズを使用したアップサイクル作品[11]を造り、その成果をプレゼンテーションも含めてファッションショーで発表した。この授業は、廃棄されてしまうジーンズを扱う企業との出会いがきっかけとなっている。これまでの第一筆者の研究活動に共感していただき、作品などに利用して欲しいと依頼を受けた。この授業で取り組んだ作品は、コンセプト及びデザイン性が高いと好評で、2023年度もバージョンアップした企画を実行した。製品化への要望もあり、『edge.』の製品ラインとして現在試案中である。

## ２．商品企画・製品開発の背景と可能性

廃棄されてしまうジーンズやデニムを使用した企画は、ここ数年、複数みられる。例えば（株）三越伊勢丹ホールディングスの『デニムde ミライ ～ Denim Project ～』[12][13]である。「新しいファッションを発信したい、ファッションの高揚感を届けたい。」という想いは変わらず大切にしながら、それを未来へ繋げていくためのチャレンジとしている。2022年３月23日（水）～４月５日（火）に、伊勢丹新宿店本館１階 ザ・ステージ他、本館・メンズ館各拠点に、小売６社がタッグを組み、（株）ヤマサワプレスが所有するジーンズのユーズドストックを、国内外の60以上のブランドやクリエーター、アーティストの手を介し200型以上の多彩なアイテムにアップサイクルした。

また、（株）高島屋は、デニムをアップサイクルする「デニム再生プロジェクト」において、2022年４月に、「デニム回収キャンペーン」を実施した[14]。約1611kg（デニムパンツ約4,500本相当）のデニムが集まり、その一部を人気デニムブランド『RED CARD TOKYO』の新作デニムとして製品化し、2023年４月12日（水）から販売がスタートした。

さらに（株）エドウインは、自社工場で生地の裁断時に生まれる屑やはかなくなったジーンズを回収して、デニム生地やジーンズにリサイクルする『コア（CO:RE）』プロジェクトを2021年にスタートしている[15]。

このようにジーンズ、デニムのサステナブルをキーワードとした取り組みは、現在も注目され、小売企業やメーカーにより提案されている。「捨て耳」を使用したアップサイクル・ブランドとして立ち上げた『edge.』だが、廃棄されてしまうジーンズやデニムを題材として、デザインで新しい価値を創出する企画は、『edge.』のコンセプトに合致する。それに加え、市場への展開の可能性があると考え、製品開発に取り掛かることとした。作品をファッションショーや展示などで発表することにより、業界で商品を企画している専門家、学生、また一般の方々の意見などが収集できる。

## ３．作品デザインの概要

材料として提供を受けたジーンズは、破れなどのダメージが多くみられ、特に股の部分の擦り切れが激しく、そのままでの着用は難しい。またショートパンツの製造過程で切り離された膝下でカットされたジーンズの足の部分などもあるため、利用するためには工夫が必要である。以下、その詳細を記述する。

まず、長さ約50cm以下の丈、幅は狭いもので周囲約30cmの膝下部分は、ウエストまでの丈のコルセット[ix]、またはコルセット風、ビスチェ風[x]のアイテムとした。シルエットを出すためのコルセットの切り替え線は、デザイン線として用いることができる。裁断屑を出さずに、切り替え線の工夫で造形できるため、膝下部分のパーツを活かせると考えた。そして、コルセットやコルセット風、ビスチェ風のアイテムは、2021年春夏頃から、ファッショントレンドアイテムとして人気となり、現在もそのトレンドは継続している[16][17]。

次に、トレンドの視点では、上下が揃ったセットアップも継続している[18]。特に、デニムのセットアップ、デニムonデニムは最新トレ

ンドとして注目されている[19]。上下の素材や色が揃っていなくても、様々な色のミックス、多種多様なテクスチャー[xi]のデニムを合わせるスタイリングが新鮮とされている。

最後に、第一筆者の担当する「デザイン企画」[xii]の授業は、学生が新ブランドを企画し、商品企画を行う実践型の授業である。学生が指向しているコンセプト、テーマの方向性や、具体的な商品を発想するため、若い世代の好みのデザインやアイテムは可視化できる。前述したコルセット風やセットアップは、ここ数年、多くの学生が取り上げている。さらに、アパレル・ファッション業界の専門家とのブレーンストーミングからも、これらのアイテムが、消費者から支持されている実態が確認できる。

以上の事象から、本企画の核となるアイテムは、トップスはコルセットまたはコルセット風のセットアップとした。ボトムもトップス（コルセット、コルセット風、ビスチェ風）同様に、できるだけ裁断をせずに、工夫をして造形する。ジーンズはそのまま使用し、スカートにする場合は、股下などの直線部分を切り、折りたたんだり、ギャザーやドローストリング[xiii]で変形させたり、擦り切れや裂けてしまった部分を結んだりしながら造形する。

そして、『edge.』の主材料である「捨て耳」、服飾資材企業からＢ品として提供を受けたパーツ、授業で使った生地の切れ端や資材などの廃材を、装飾資材として用いた。各アイテムをキャンバスに見立て、複数の廃材を使い造形する。漸進的な作品を創出するためコラージュ[xiv]といわれる技法で、アイテムを装飾していく。

以上をまとめると、本企画のデザインの核は、「①トップスはコルセットまたはコルセット風のデニムのセットアップ」、「②できるだけ裁断をしないで工夫をして造形し、裁断屑はアクセサリーなどに利用する」、「③創作技法は、ジーンズやデニムをキャンバスにみたてて、廃材を使ってコラージュする」の３つとする。

### 3-1. デニムプロジェクト2022

2022 年度に制作したデニムセットアップ作品は、12 スタイルである。以下、作品のデザインについて述べる。

（図１）は、この企画の主旨を、アクリル絵の具を使って、メッセージやイラストで描いた。インディゴ[xv]ブルーのデニムに映える蛍

図１　アクリル絵の具でメッセージやイラストを描いた作品

図２　レースの切れ端や捨て耳、廃材を使用した作品

図３　古くて捨てるしかないアイテムを
切り刻まずに制作した作品

光色やビビットカラーを用い、メッセージやイラストが目立つようにカラフルな色使いとした。

デニムと相性の良いレースを使った作品は、白レース２体、黒レース１体とした。これまでの作品制作で使わなかったレースの端切れから切り取ったモチーフ、汚れて使えなくなったテーブルクロスの縁レース、また「捨て耳」、廃材（綿、ワイヤー、ビジュー[xvi]など）を使った（図２）。

古くて捨てるしかないアイテムを切り刻まずに制作した作品は２体である（図３）。折ったり、タックやギャザーを寄せたりして造形する。カムフラージュ[xvii]柄の古着ジャケット２枚を材料としたセットアップは、ダブルステッチがかかった折り伏せ縫い[xviii]部分を紐状に裁断して、トップスには切り替え部分の装飾として用い、ボトムにはドローストリングとして使った。ジーンズの股下部分を切って、スカートの形状に整え、アンバランスな裾のラインからみえるようにアンダースカートを制作し、裁断後のカムフラージュ柄ジャケットを、折りたたんで裾部分に縫い付けた。廃棄予定のチェック柄の古着のネルシャツを主体としたセットアップは、ジーンズからスカートを造形しながらチェックシャツと複数のチェック柄のハンガースワッチを合わせて多種多様なチェック柄のパターンオンパターン[xix]の表現がポイントとなる造形とした。コルセットは、トップ部分にチェックのパイピング[xx]を縫い付け、さらにボトムで使った柄とレジメンタル柄[xxi]の古ネクタイを合わせてコサージュを造り、装飾した。

残りの４体は、「つまみ細工（花）」「洋雑誌の写真」「端切れ」「捨て耳」をメインの資材として用いた。「つまみ細工」を資材とした作品は、過去に制作したダンガリー生地の残りを柔軟剤で柔くし、つまみ細工の花を複数個造り、コルセットとジーンズに、バランスをみながら配置して縫い付けた。「洋雑誌の写真」を資材とした作品は、古い洋雑誌からレトロモダンなイメージの写真を切り取り、デコパージュ液[xxii]を使って、トップとボトムに貼り付けた。10cm × 10cm、10cm × 20cm 位の正方形や長方形の複数の端切れを資材とした作品は、パッチワーク風にみえるようにトップとボトムに縫い付けた。柄、色、素材のテクスチャーの違いなどの多種多様な生地をミックスした表現である。黒の「捨て耳」を資材とした作品は、ほつれないように鎖編みをし、縦のラインとアシンメトリーな配置を意識しながらバランスをみて配置し、縫い付けた。全ての作品が出来上がってから、そして、セットアップに用いた技法やモチーフなどを使って、帽子やヘアバンドなどの服飾雑貨を造った。

### 3-2. デニムプロジェクトプラス2023

2023 年度は、2022 年度の 12 スタイルからアップグレードした提案を試みた。2022 年度に決めた本企画の３つの核を基軸に、2022 年度の作品を再利用して、バッグ、帽子、などを含めたトータルの提案で、カジュアルからドレスアップスタイルまで、全 11 スタイルを提案する。以下、作品のデザインについて述べる。

前回の技法を使った作品は、「デコパージュ」２体、「捨て耳」１体、「花（薔薇）」１体である。「デコパージュ」の作品は、古い洋雑誌からファッション、モードなイメージの写真を切り取り、大・中・小のデニムの丸いモチーフに

図４　「デコパージュ」の作品

図５　黒の「捨て耳」を用いた作品

図６　薔薇の花モチーフの作品

図７　端切れをフードの形状やフリンジの装飾として用いた作品

図８　裁断屑を装飾に用いたブラトップとワイヤー入りオーバースカートの作品

図９　裁断屑を紐状及びリボン状にし、結んだり、編んだりした作品

貼り付けた。モチーフは、バランスをみながら、前回制作のセットアップ作品に配置した。帽子とカバンにはセットアップのモチーフイメージと関連する要素を取り入れた（図４）。黒の「捨て耳」を用いた作品は、縦のラインを強調するように「捨て耳」の装飾を足した。そして、「捨て耳」で編んだ帽子と鞄も同様に装飾した（図５）。「つまみ細工」の花を使った作品のバージョンアップとして、「薔薇」をモチーフとして用いたセットアップと帽子、鞄を制作した。まず、前回制作したスカートの上に、多数のデニムの薔薇の花モチーフをアシンメトリーに配置したオーバースカートを制作した。コルセットは、スカートとの薔薇のモチーフの配置のバランスをみながら、数個の薔薇モチーフと「捨て耳」や残り糸をニードルパンチ刺しゅうミシン[xxiii]で縫い付けた（図６）。

裁断して残った端切れや屑を使った作品は、４体である。端切れを使った作品は、生地の大きさや形、ステッチなどをいかしながら、立体的に造形した。例えば、フードの形状になるように、またフリンジの装飾として用いた（図７）。（図８）は、ブラトップの装飾として、裁断屑を縫い付け、ワイヤー入りのオーバースカートを造った（図８）。端切れを使った（図９）は、70cm × 80cm の長方形の網状の生地を複

図10　裁断端をパッチワークしてセットアップとした作品

図11　廃棄予定のドレスを羽織るアイテムとしてスタイリングした作品

図12　古着ドレスに前回制作したコルセットをペプラム風に用いた作品

図13　古着ドレスに前回制作したコルセットとスカートを用いた作品

数枚使って、ワンピースの形にして、前回と今回の作品制作、及び過去に制作した作品の裁断端を、約 1 cm の紐状にしたもの、約 1 cm × 7 cm リボン状にしたもの、「捨て耳」を、結んだり、編み込んだりして、色とテクスチャーを検討しながら装飾した。そして、ヘアアクセサリー、巾着袋、ブーツカバーを作成した。（図 10）は、デニムの裁断端をパッチワークしてセットアップ（キャミソール、長袖トップス、スカート）を作り、長袖トップスの袖の部分に、ブルーのソフトチュールのフリルを装飾した。

ドレスアップ作品は、３体である。前回制作したレースの装飾ジーンズには、古くなったデザインのため廃棄される予定のドレスに、関連の装飾をして、羽織るアイテムとしてスタイリングした（図 11）。（図 12）（図 13）は、70 年代後半のアメリカの古着ドレスに、前回制作したコルセットやスカートを用いて造形した。例えば、ピンクのドレスは、コルセットを２枚重ねて、ペプラム [xxiv] 風コルセットに作り替えた（図 12）。両スタイルとも、ヘアバンドなども合わせて作り、トータルスタイリングを提案した。前回白のレースを用いた部分は、化粧品のアップサイクル色材 [xxv] を使って着色した。

## ４．発表：プレゼンテーション・映像放映・ファッションショーと評価

デニムプロジェクト 2022、デニムプロジェクトプラス 2023 の作品発表は、企画、作品コンセプトと概要を概説するプレゼンテーション、メイキング映像の放映、ファッションショーの３つのプロセスで行った（図 14）。2022 年は、学内２回、学外３回、2023 年は、学内２回、学外３回、実施した（表１）。以下、詳細を記述する。

本企画の趣旨を概説するための資料を作成した。主として扱うかなりダメージを受けて廃棄するしか選択の余地がない古着ジーンズの入手方法、セットアップアイテムに決定した経緯、コラージュのように装飾するとした経緯、ショーの演出・構成などを概説した（図 15）。

ショーの音楽は、企画の主旨と作品の印象から、2022 年度に参加した学生 29 名が、それぞれが作品をみてイメージした単語を提出し、テキストマイニング [xxvi] でまとめ、キーワードを抽出し音源を作った（図 16）。2023 年は、2022 年の音源に、参加学生の声を重ねて、リズムなどをアレンジした。最後に、このプロジェクトに参加した感想なども記述し、テキストマイニ

図14　デニムプロジェクト2022、デニムプロジェクトプラス2023の作品発表の様子

表１　デニムプロジェクト 2022, デニムプロジェクトプラス 2023 の作品発表 概要

| 年度 | 学内･学外 | 概要など | 日時 | 場所 | その他詳細 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2022年 | 学内 | 「被服学ゼミナール A・B」授業 | 2022年6月29日（水）<br>18：15～ | 共立講堂 | 合同ファッションショー |
| | | オープンキャンパス | 2022年8月7日（日）<br>13：40～ | 共立講堂 | |
| | 学外 | One-O-Five Drive in ADACHI SUMMER | 2022年7月23日（土）<br>11：00～18：00 | 古着ジーンズ提供の企業 | |
| | | クラフト＆ツーリズムマーケット「Onland Craft Market 2022」 | 2022年10月21日（金）<br>16：00～ | TOKYO TORCH Park（東京駅前） | |
| | | CES エコフェア 2022 | 2022年12月17日（土）<br>10：00～15：00 | 千代田区役所１階市民ホール | アップサイクルファッションショー及びワークショップ |
| 2023年 | 学内 | 「被服学ゼミナール A・B」授業, 03 クラス単独 | 2023年7月26日（水）<br>17：30～ | 共立女子大学２号館, プレゼンテーションエリア | |
| | | オープンキャンパス | 2023年8月5日（土）<br>13：10～ | 共立講堂 | |
| | 学外 | 千代田区ストリートファッションショー | 2023年7月14日（金）<br>16：30～ | ちよだプラットフォームスクウェア１階広場 | |
| | | デニムプロジェクトプラス 2023/単独 | 2023年9月24日（日）<br>13：00～・16：00～ | WACCA IKEBUKURO | 作品の展示や関連製品の販売：<br>2023年9月16日（土）～24日（日）<br><br>ワークショップ:<br>2023年9月18日（月）・23日（土） |
| | | CES エコフェア 2023 | 2023年10月21日（土）<br>11：00～・14：00～ | 千代田区役所１階市民ホール | テーマ：<br>サーキュラーファッション 2023 |

図15　本企画の趣旨を概説するための資料

図16　参加学生が作品をみてイメージした単語のテキストマイニング

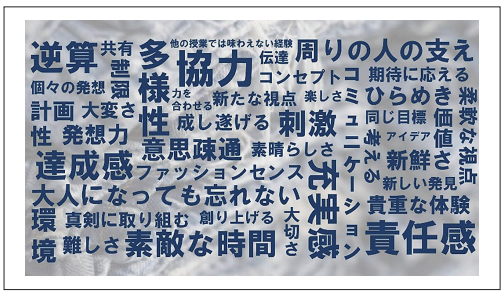


図17　プロジェクトに参加した感想の
テキストマイニング

ングで示した（図 17）。

制作プロセスがわかるようにメイキング映像（2022 年 1 分 32 秒、2023 年 1 分 29 秒）を作成し、ファッションショーのプロローグとした。学内でのファッションショーは、モデルは、共立講堂の舞台の上手と下手から登場し、ファッションショーのランウェイ[xxvii]のように、客席に向かって縦に歩く動線とした（図 18）。学外イベントは、会場が路上などのため、歩行者を巻き込みながら歩くストリートファッションショーのような演出とした。

さらに、2022 年度の振り返りとして、作品の評価などを詳細に聞けなかったことが反省点であった。そこで、2023 年は、ファッション

図18　共立講堂でのファッションショーの様子

業界において企画を担当している方々、スタイリスト、アーティストなどの専門性の高い業務に携わっている６名に、発表会をご覧いただき、講評と記述式アンケートを実施した。作品、コーディネート、プレゼンテーション、ファッションショー、プロジェクトの全てにおいて、高い評価をいただけた。自由記述では、「コーディネート作品までの提案のクオリティが高い」「斬新なアイディアでファッションの楽しさを提案している」などの作品としてのデザインに高評価をいただけた。「製品化できれば良いと思う作品があった」などの市場展開の可能性が期待できる記述もあった。さらに、プロジェクトを継続するべきとの意見が多く、「本企画をみて、アップサイクルの可能性を感じた」との記述もあった。本企画の提案に自信を持って、都内の商業施設で館を回遊して見せるショーを行った。ここでのショーでは、一般のお客様に、見ていただける機会となった。後日、出演者・スタッフ学生にブレーンストーミングで意見交換をした。多くの学生が、このプロジェクトの経験から、廃棄されてしまうモノに、デザインにより新たな価値をもたらすことに意義を感じていることがわかった。20 名が答えた授業評価アンケートの結果、この授業は意義があったと全員の回答を得ることができた。

## ５．おわりに

デニムプロジェクト 2022、2023 を実行し、３つの成果があった。

まず、企画の主旨、制作した作品については、概ね好評価を得ることができた。そして、アパレルの企画に関わっている方からは、現在、市場で展開されている製品の同質化を課題とし、本作品のような個のデザインを重視した製品の必要があると講評があった。その一方で、製品化する場合は、製品に見合う価格設定をしなければならないため、ターゲット設定が重要であるとアドバイスをいただいた。

また、これまでの授業の作品制作のプロセスにおいて、裁断をした際に排出される布端や裁断屑は、少なくない。これらを使い、新しい価値をデザインで表現する工夫ができた。そして、前回制作の作品を、新しく見せるように工夫するデザインの提案もできた。

さらに、アップサイクルの概念に触れた学生の教育効果も大きいのではないかと考える。例えば、先述したように、作品を制作するプロセスでは、裁断屑なども捨てずに新しい価値をデザインで表現した。アップサイクル作品を提案する概念を理解できたのではないかと推察する。そして、発表会に参加することで、アップサイクルが社会にとって重要であるという気づきを得たのではないかと思われる。

筆者らは、この取り組みを通して、市場展開の可能性を探っていきたい。本企画では、作品として見せるデザインを起点としたが、ターゲット設定と市場分析を行いアップサイクル製品のデザイン提案を行う。『edge.』の製品ラインナップとして確立したいと考えている。

## 注

ⅰ）OEM（Original Equipment Manufacturer）とは、相手先のブランドで販売される製品を製造すること。

ⅱ）ODM（Original Design Manufacturer）とは、情報収集に基づいた商品の開発、製造までを手がけること。

ⅲ）富士北麓に広がる、山梨県東部（富士吉田市、上野原市、大月市、都留市、西桂町）は、昔から郡内と呼ばれ、郡内織の機業地として知られる。品種の内訳（上位）は、裏地21％、座布団地20％、婦人服地８％、ネクタイ地13％である。このうち、先染め裏地は全国シェア98％を占めている。小ロット・短サイクル化に向けて先端技術の導入などをはかっているが、厳しい環境下、企業間の格差も大きくなっている。（統計数値は1992年）閏間正雄，富森美緒．日本のテキスタイル産地，文化出版局，2007, p.45.

ⅳ）「捨て耳」とは、製織工程で生じる繊維屑で、横糸を織物端部でからませる連続的な縦糸に織物端部で切断された不連続なよこ糸が絡んだものである。１本の長さは、工程途中で切断しない限り、製造される織布の長さと同じ。

ⅴ）2023 年８月８日（火）13：00 ～ 16：30、共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館５階で行った。対象者は千代田区在住の方々と学生。第一筆者は、テーマを「暮らしに役立つアップサイクル・ファッションの紹介」として、概説、展示とワークショップを行った。

ⅵ）B反とは生地の検査の結果、疵の発生点数が基準以下で、Bクラスと認定された生地（織物、ニット生地、レース等）のこと。B品とは、例えば、服飾資材であれば、製造過程で傷や汚れが付いているなど、通常流通で展開できない製品のこと。

ⅶ）サーキュラーファッションとは、製品の全ライフサイクル（原材料・設計・調達・製造・販売・利用・回収・再生）において、循環化を図る取り組みのこと。https://cehub.jp/circular-fashion/, 2021年６月10日閲覧

ⅷ）「被服学ゼミナールA・B」は、共立女子大学　被服学科の２, ３年生配当の前期授業科目名。第一筆者は、03クラスを担当し、「サーキュラーファッション」をテーマとして、産学連携の授業を行っている。

ⅸ）コルセットとは、ウエストラインを細く、相対的にバスト、ヒップを強調する効果を目的とした体型の補正下着である。現在はファッションとしての着用と、医療用に腰部保護にも使用される。イラストファッション・アパレル用語図鑑モデリーナ，https://www.modalina.jp/modapedia/w/e382b3e383abe382bbe38383e38388/, 2023年８月17日閲覧

ⅹ）ビスチェとは、現在は、名称としては似た形状のトップスも示すが、元々、ブラジャーとウエスト・ニッパーが一体化した、女性用下着を意味する。イラストファッション・アパレル用語図鑑モデリーナ，https://www.modalina.jp/modapedia/w/e38393e382b9e38381e382a7/, 2023年８月17日閲覧

ⅺ）テクスチャーとは、視覚的、触覚的に感じられる凹凸感、ソフト感、ハード感、ドレープ性、つや、ぬめり感などをいう。https:// www.fashion-press.net/words/263#, 2023年８月２日閲覧

ⅻ）デザイン企画は、共立女子大学　被服学科の３年生配当の通年授業科目名。アパレル業界の企画部門について、製品展開までのプロセスと業務内容を学習する。仮想ブランドを想定しターゲット・コンセプトを設定して市場における優位性を探っていく。シーズン・マーチャンダイジングの概念の基、商品展開の組み立て、

数量決定、生産方法、プロモーションなどの具現化を行い、アパレル業界で実践されている方法論を学ぶ。

xiii）ドローストリングとは、「引き紐（ひきひも）」の意。 衣服のウエスト部分などに紐通しを付け、紐を引くことによってサイズを調節するようにしたデザインのこと。たっぷりした感じがでる。ファッションプレス公式サイト，https://www.fashion-press.net/words/ 281，2023 年 9 月 12 日閲覧

xiv）コラージュとは、切りばり、切り絵、印刷物や色紙などの紙片やぬのきれ、その他の材料をはりつけて１枚の絵に構成する方法。ファッション辞典 . 文化出版局，2012 年２月，p.230

xv）インディゴは藍（あい）のこと。天然の藍色染料で、織物などを染めた後、空気にさらして酸化発色させる。主にジーンズやデニムに使われている。もともとインド産の藍が使われたことからこの名がついた。ファッションプレス公式サイト，https://www.fashion-press.net/words/, 2023 年 9 月 12 日閲覧

xvi）ビジューとは、一般的には宝飾品を示す言葉で、フランス語で、宝石の意味。ファッションの場合、人造石（模造宝石）によって加えられた装飾部分、もしくは装飾を施したことを形容する時に使われる。イラストファッション・アパレル用語図鑑モデリーナ，https://www.modalina.jp/modapedia/w/e38393e382b8e383a5e383bc/, 2023 年 8 月 17 日閲覧

xvii）カムフラージュとは、「偽装、迷彩」という意味。森など風景に溶け込み、敵の目を欺き発見されにくいようにする方法。そこから、ファッションでは、自然、植物や土など同化し、自然に溶け込むような迷彩柄のことをいうことが多い。ファッションプレス公式サイト，https://www.fashion-press.net/words/723, 2023 年 9 月 12 日閲覧

xviii）折り伏せ縫いとは、縫い代始末の一種。縫い目が丈夫な縫い方であるため、子供服やジーンズなど洗濯回数の多いものに使用される。縫い代が隠れて裏もきれいに仕上がるなどの利点がある。

xix）パターンオンパターンとは、柄に柄を重ねるという意味。吉村誠一 . ファッション大辞典 , 繊維新聞社，2011 年 4 月 11 日，p.702

xx）パイピングとは、布（生地）の端を細いテープや別布で包んだディテールのこと。ファッションプレス公式サイト，https://www.fashion-press.net/words/64, 2023 年 9 月 12 日閲覧

xxi）レジメンタル・ストライプは、「レジメンタル・タイ」と呼ばれるトラディショナルなネクタイに使われる「斜め縞」。成田典子．（株）テキスタイルツリー , テキスタイル用語辞典，2012 年２月 25 日，p.356

xxii）デコパージュ液とは、手持ちのアイテムに好きな柄のペーパーナプキンなどを貼りつけるための専用液のこと。

xxiii）ニードルパンチ刺しゅうミシンは、素材を特殊な針で叩くことで、生地に埋め込んだり、新しい風合いの素材を作り出すことができるミシン。（株）ベビーロック，https://www.babylock.co.jp/product-post/bnp-7e/, 2023 年 9 月 12 日閲覧

xxiv）ペプラム（peplum）とは、ウエストから裾への部分がふわっと広がったデザイン。主にフレアやフリルなどで裾広がりになったデザインのことを言う。または短いオーバースカートのこと。アイテムでは、ジャケットやブラウス、ワンピースなどに取り入れられる。ファッションプレス公式サイト，https://www.fashion-press.net/words/554, 2023 年 9 月 12 日閲覧

xxv）廃棄される化粧品バルク（化粧品製造時に規格を満たさないなどの理由で廃棄される液体や粉体）から作製した色材。

xxvi）テキストマイニングとは、大量の文章型データをコンピュータで分析する情報技術，https://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/language/story3.html/, 2023 年 7 月 28 日閲覧

xxvii）ランウェイは、「劇場の花道、滑走路」といった意味で、ステージを使ったファッションショーを指す。吉村誠一 . ファッション大辞典，繊研新聞社，2011 年 4 月 1 日，p.23

## 引用参考文献


1）宮武恵子，加藤裕子．アップサイクル・ブランドの商品開発（第 1 報）～郡内産地との取り組みを通して～ , 共立女子大学家政学部紀要　第 69 号（2023），p37-52

2）ファッション販売，株式会社アール・アイ・シー，2022, p.18

3）「ファッションと環境」調査結果，環境省，https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/case25.pdf, 2022 年 2 月 15 日閲覧

4）五十嵐 真希子 , 小野 健太 , 渡邉 誠．産業廃棄物における二次製品開発指標を用いたアップサイクル製品の制作，日本デザイン学会 デザイン学研究，2015 年

5）富士大石ハナテラスサイト，https://www.fujioishihanaterasu.com/, 2023 年 1 月 26 日閲覧

6）ハンドメイド通販・販売 Creema, 光織物，https://www.creema.jp/c/hikari-textile, 2022 年 8 月 21 日閲覧

7）ふるさとチョイス，富士吉田市のふるさと納税，https://www.furusato-tax.jp/?header, 2022 年 8 月 21 日閲覧

8）千代田エコシステム推進協議会公式サイト，https://chiyoda-ces.jp/conference/, 2023 年 7 月 21 日閲覧

9）CES の事例 https://chiyoda-ces.jp/event/festa/report-h28/, 2022 年 11 月 5 日閲覧

10）CES の事例 https://chiyoda-ces.jp/event/festa/ecocycle2019-1/, 2022 年 11 月 5 日閲覧

11）共立女子大学公式サイト，家政学部 被服学科 ニュース一覧，https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/hihuku/news/, 2023 年 9 月 12 日閲覧

12）（株）三越伊勢丹公式サイト，https://www.mistore.jp/shopping/feature/shops_f2/st_denimdemirai1_sp.html, 2021 年 12 月 1 日閲覧

13）（株）三越伊勢丹公式サイト，https://www.mistore.jp/shopping/feature/shops_f3/st_denimdemirai_sp, 2022 年 4 月 12 日閲覧

14）（株）高島屋公式サイト，https://www.takashimaya.co.jp/store/special/depart_de_loop/denim.html, 2022 年 5 月 11 日閲覧

15）（株）エドウインサイト，https://edwin.co.jp/topics/sustainability_core.html, 2023 年 5 月 11 日閲覧

16）VOGUE 公式サイト，https://www.vogue.co.jp/fashion/article/ss21season-corset-tops, 2021 年 6 月 15 日閲覧

17）VOGUE 公式サイト，https://www.wwdjapan.com/articles/1350975, 2022 年 4 月 22 日閲覧

18）WWD ジャパン公式サイト，https://www.wwdjapan.com/articles/1253276, 2021 年 9 月 10 日閲覧

19）VOGUE 公式サイト，https://www.vogue.co.jp/fashion/article/weeklycoordinate-denim-trend-2023, 2023 年 2 月 23 日閲覧